

製造装置と工場管理端末“直結”

新開発ソフトを販売

ウインズ

半導体製造装置の製造・販売を手掛けるウインズ（葦崎市大草町若尾、長田厚社長）が強化に取り組んでいたソフトウエア開発事業で、製造装置と工場管理コンピュータをつなげるソフトを開発、販売を始めた。

ソフトはウインズの技術者が設計し、インドの子会社「ウインズインフォテック」で構築している。ウインズは昨春、ウインズインフォテックの

資本金を三千三百万円で増資、九月には事務所を千二百平方呎に増床するなどして事業を強化していた。

開発したソフトは、製造装置に内蔵されたソフトの個別仕様にかかわらず、工場側の運用ソフトと接続が可能なため、製造装置と工場をつなぐ通信用のソフトを新たに開発する必要がない。

自社向けに開発を進めていた受発注や在庫管

理のソフトも完成し、近く中小企業を対象に安価で売り出す。製造装置と工場管理コンピュータをつなげるソフトは百五十ライセンスで一台当たり百五十万、受発注や在庫管理のソフトは百万円。初年度は四千万円の売り上げを見込んでいる。

ウインズインフォテックは現在、携帯電話やカーナビ、デジカメなど電子機器向けに組み込みソ

フトの開発なども手掛けていて、八十人の従業員を今後百人にまで増やすという。